



島根県立三刀屋高等学校

校長発 『本流』

【12月号②】令和6年12月20日



### ■みえるものからみえないものを

2学期終業式を迎えました。年度としてはまだ3学期が残っていますが、2024年は残り10日余りとなりました。2学期は県内外の中学生や学校関係者の学校見学・学校訪問が多くありました。その際にいただいた感想には嬉しくなるものが数多くありました。「学校見学をした際、自習となっているクラスでも皆さんしっかりと課題に取り組んでいてこの学校でなら自分の進路実現が目指せると感じました。」「すれ違う生徒の皆さんが全員挨拶をしてくれました。とても気持ちよくて嬉しかったです。」などです。皆さんとこれらの嬉しい思いを共有したいと思い紹介しました。

さて、改めて2024年はどんな年だったでしょうか？うるう年の今年、世界的にはパリオリンピック・パラリンピック開催、アメリカ大統領選挙実施、日本では石破新内閣誕生など多くの出来事がありました。思い返せば、2024年の始まりは元日の石川県能登半島での大地震発生でした。被災地は、9月の豪雨災害も重なり未だ復興にはほど遠い状況です。1年が経過しようとしている今、改めて私たちがすべきことを考える必要があります。

「天災は忘れられたる頃来る<sup>きた</sup>」という警句があります。この警句は、物理学者で随筆家の寺田寅彦（てらだ・とらひこ 1878（明治11）年11月28日～1935（昭和10）年12月31日）氏が発したものです。寒さが一段と厳しくなり本格的な冬を迎えるこの時期には低温・大雪による災害や火災等も多く発生します。年末に向け身の回りの安全を再確認しながら、万が一を想定しその想定範囲を広げておくことが重要です。

ところで、寺田寅彦という人物は、中学校まで高知市で過ごし、中学卒業後は熊本県の第五高等学校（現在の熊本大学）に入学し、そこで英語教師を務めていた夏目漱石と出会います。寺田

は漱石を師と仰ぎ、漱石もまた寺田を教え子として可愛がり、

『吾輩は猫である』に登場する苦沙弥先生の元教え子で「地球の磁気」を研究している水島寒月（みずしま・かんげつ）や

『三四郎』に登場する理科大学の教師で光線の圧力の研究をしている野々宮宗八（ののみや・そうはち）のモデルとされています。高知城の近くに建てられ



ている寺田の銅像の台座には「ねえ君ふしぎだと思いませんか」と刻まれています。こちらがそ

の銅像ですが、彼が右手に持っているものは何だと思いますか？それは椿の花です。彼は「椿の花の落ち方」について論文を書いています。その研究テーマは、椿の花はなぜ上を向いて落ちていくのかです。研究のきっかけとなったのは、漱石の詠んだ「落ちぎまに<sup>あぶ</sup>虻を伏せたる<sup>かな</sup>椿哉」という句です。この句は、椿が下を向いて落ちていて、さらに虻の上に覆いかぶさっている情景を読んだ句です。なぜ椿の花が下を向いて落下しているのか？彼は虻が<sup>あぶ</sup>椿の花の蜜を吸うことに夢中となっている間に一緒に落下してしまった。虻のせいで花の重心が変わり下を向いて落下したとの仮説を立て、観察・実験・方程式による計算を繰り返したそうです。このあたり、皆さんが取り組んでいる探究活動に通じるものがありますね。そして、その成果を地震の発生メカニズムの研究にまで応用しています。日常接している何気ない（と思っている）ことに対して「どうしてかな？」という疑問を持つことは、自分自身の視野を広げていくことにつながります。当たり前と思われていることほど、実は奥が深い場合もあります。はじめに、寺田寅彦は物理学者で随筆家と紹介しました。物理学は理系で、随筆は文学だから文系といえますよね。寺田寅彦は、文系・理系の枠を超えて探究を進めるSTEAM教育\*の先駆けであると言えるでしょう。狭い専門性にとらわれずあらゆるものに“ふしぎ”な思いをもって接することにより、探究の幅も奥行きも広がっていくと思います。

では一枚の写真を提示します。“ふしぎ”なところはないですか？

（終業式当日は、北海道の家屋の写真を提示して“ふしぎ”に感じる点をあげてもらいました。）

もう1枚写真をお見せします。写真手前から奥に向かって歩いているとします。どの方角に向かって歩いているのでしょうか？

年末年始は、親戚や家族との交流の機会が多くあったり、旅行に出掛けたりすることもあると思います。これまで何気なく見過ごしてきたモノやコトに“ふしぎ”な思いをもって接してみてはいかがですか？そして、おうちのお手伝いや団らの時間も大切にしながらよい冬休みを過ごしてください。Have a nice winter holiday!

最後に、昨年と同じこととお話しします。当事者になって見ないと実感がわかないものですから。

大学共通テストを受験する3年生の皆さん、試験まであと29日となりました。私が高校3年生の時にも同様の試験がありました。目標とする得点に届かず「あと1週間あれば。いや3日でもいい。」と心の中で叫んだことを記憶しています。受験生の皆さん、あと29日もあります。これからの1日、1時間はとても貴重なものです。学習習慣が軌道に乗って、脳が活発化しているこの時期は、1日あればかなりのことができます。どうか計画的に時間を使ってくださいね。

繰り返します。「受験生の皆さん、あと29日もあります。」

そして、それぞれの目標に向けて焦りながらも懸命に努力を続けている皆さん、物事が順調に進まなくて落ち込んでいる皆さんへ、この言葉を贈ります。

Everything will be okay in the end. If it's not okay, it's not the end.

「最後にはすべて上手くいくよ。もし上手くいっていないのなら、それは最後ではないということ。」 John Lennon（ジョン・レノン）

\*STEAM 教育

理系や文系の枠を横断して学び、問題を見つける力や解決する力をはぐくむ学習。

「STEAM (スチーム)」とは、学問領域である Science (科学)、Technology (技術)、Engineering (工学)、Arts (美術)、Mathematics (数学) の頭文字を並べたもの。

参考資料：「中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会 第120回」

(2020年9月24日(火)) 配布資料

[https://www.mext.go.jp/content/20200917-mxt\\_kyoiku01-000009959\\_4.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200917-mxt_kyoiku01-000009959_4.pdf)

■終業式当日に使用したスライド (一部)

